



聞見錄

服部文庫
117
70





117
70



○作 自花よおみしうとて何ははる

○初 作 亦紫を知らるる者一五カ

○採 米のちりの形こゝろとハ穀類の

○標 五穀の穀とわがりたる

○黄 米のちりのぬきたる

○権 規係中極法
元和元年 乙卯七月

○甲 乙 丙 丁 戊 巳 庚 辛 壬 癸
木 火 土 金 水

○子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌
火 土 木 火 土 金 土

○既 稟 新 節 米
八專者壬子ニ入而癸亥ニ明ク也專ナル也

ハツ有 不專者四有間日也



あー一尾葉一うく種のあるまじりませ
能くかまらき種にあーく六月五日
終日向するおちるまじりのみずへ生
中風と石紙をかかすらうて耐用の
のみん利根紙をかかう紙白とけし奉
常たすいけいけいけいけいけいけい
用なりしん

○かくの妙業

漆物に用い実秋たり金よりつじ
まじりきれぬ色をわり蓋つ種
用なりあまらけいぬまををりて用

○うみぬまの妙業

めんそくの粉と種品の粉とのり
おしきせするしあんのつとを
うよう

○飢を治のく法

夏石公湯良に信方
仙粉云々五午酒にまじり干又にまじり
酒午ツクス

○壽延

一人多 和じり
仙粉とぬま寿延下人多くまじり

○如此弟此粉と衣と一丁候ソツ
粘し〜〜〜三日〜〜〜粉を一日〜ツ
今ま〜〜〜乳力常合漆

○秘事 改らるる云

仙粉ハ 壽向ま粉ん

ま粉ハ 糲米の粉ん

○弟肉を草麻子白きものうけを
弟の粉と入醒の隣の粉と入ら乾

○酒醒す法

樽ののりと黒やきうそのり丸砕
む時〜〜〜酒のむ

○毎ふ〜〜〜ぬら〜〜〜と鼻へ入ら
けら〜〜〜ぬら〜〜〜の〜〜〜

○知難事 貝粉ヲ押金端不見時ハ
〜〜〜又小使ハあま〜〜〜

○怪き物と見〜〜〜我たの袖口を
〜〜〜又小使ハあま〜〜〜

○扇板立町買方人本〜〜〜ハ
〜〜〜又小使ハあま〜〜〜

○身と地と身と〜〜〜ハ
〜〜〜又小使ハあま〜〜〜

○身と人別隠ハ〜〜〜ハ
〜〜〜又小使ハあま〜〜〜

○せし物も焼くはありとのやまらうなる時
あしとの根ヲ是焼すを入つこと

○紙油舟なることありは法

去毒と細末とすすりあつて内四五
方斗のあつてかきまき白紙を油に上
油の舟なる紙ヲ油を舟に上りすす紙
と一き右の舟にかけ細末ヲ舟に上り
右ヲ舟一夜の油舟と作る

○鼻血止すは口からきき切せるの鼻
へ入る右大さへ

○目よ物入りききぬは油のさけ是焼古の
上とす

○さんせりまむせしぬはすはのこし
○痛者疲

諸書治法より一日内死す病は多き
ことありありすすきとすことあり
たのまらさかありしことありし
○痛者疲の法とすらやまことあり
おしきせりぬは速癒とす

○痛目

胡椒 白礬 燻す 二味苦を我脳少
右見こつ花箱につみ一日五度と
さけへしき妙

○刺痛を治す法
煮るは鶏卵ヲ煮味汁は善きと入
さゆこのむ

○夜ふ知中夜とすぬは益知と散薬は
くは治すこのむ

○草解一味常のぬきせしこのむとま
又銘のしらすは是焼すてさゆと

○用妙
○療癒

山梔子ありぬすすは膿瘡は能あら
けへし強くあむすは能治す

○咽喉腫あつり呼吸不通死せんとす
こ

チサの根ヲ是焼すたりとすはよく
あきぬは鼻のぬき物と息つすり
らるしむすはし何れ奇妙れ
はる

○底更と治る

くらしのひけ粉とくしといと押ませ
けり。

○痔漏妙法

蓮葉をすり花用より附たりつけ干す
是を二度のむし根つくり

○人煙りる死するあり大根の汁を口に
中喉齒より雷を添てつけたるはやく
さす。

○痔に大秘法を家傳く由

大梨汁 沖に目 生姜汁 日焼耐

白蜜 沖に目 四味とから糸わする

せん せん せん せん せん せん せん せん
見母 せん せん のふりり せん せん せん せん せん せん

○家傳切疔めまへ 素む血ありとくし

白胡麻一味とくしり 雷丸の油を
焼り 縮る色火の上を紙を塗りつけよ

○疔を治す所のあり 焼く事あり
くし せん せん せん せん せん せん せん せん

山梔子とせん せん せん せん せん せん せん せん

○田舎に産むの粉胡麻油とせん

○かこよよのぬふつけぬし せん せん せん せん

○三病の秘法
雷丸 二百兩 大黃 せん せん せん せん
右粉より合を茶のりら ○せん せん せん せん

一日二粒免三度用ゆす日あり せん せん せん せん
宛増用ら

○耳たれに縮の疔をせん せん せん せん せん せん せん せん

○シヤクリハ男た女右のぬたよ
字にん せん せん せん せん せん せん せん せん

らぬやうか如き空とこつん せん せん せん せん
又眼より小刀とぬき せん せん せん せん せん せん せん せん

○漆こまけをせん せん せん せん せん せん せん せん せん

○足こまけをせん せん せん せん せん せん せん せん せん

○耳の肉は入る せん せん せん せん せん せん せん せん

一てき身いひさるる虫出さ

○瑞登金しけとまゝあゝあゝとつゝあ
とていん入たくと

○火難養雷月辟法

慎出草 糸草草は平日持て
又ほ草あり出さくよまつる
つりて拵す

○金羽の移りりいららまあのとつりじ
金羽のやあまの膠あまき
金羽のやあまの膠あまき

○夜廿七夜 破に隔り入一夜魚みうけ
いん

○蛇ノキヲウ呪

クカニノ子ニチ モクフモチノモチキリ
カハマノカミクミタイノセリ

是二一布
アヒラ

○正月の業正月ツキの油

○かつけの業たんとんの

をちららありける甚妙

○正説玉碎話曰

観世左近法名安休ウタイニ三病ヲ立
声ノ能ト覺ノ能ト拍子ヲキナルト
笛人ハウタイニナラスト云其拵は
是トシテ自はテリトシテ自己自然
ノ才知良能ニ執若シテ造物極
ノ中道ヲ不知と云つり

○神ニ湯ニヲナス事

常憲院様神代事社奉行本正
少御神田守備官内ト守備ト云言
ヤマリ院文出由其子ニ文内先生
スル故決ハツテ遠之如此
三礼ニ祝禊ト有祝ハ人ヨリ神ニ申
儀報ハ神代ノ名代トナリ人神ニカ
リテ人ニ告グ云是ヲ神託湯花云
中華ハ敬辭ト云

○官制服忌令

伯叙叔姑忌日服九十日
殿ノ伯父 兄ノ伯舅 嫂ノ伯姑

○夢想國師

後醍醐天皇はるしうなふ

おこめんののまたたたりあり

正月雅有の女ゆひる

右和し〜一日而開用し

馬のびん三〜文字の例

と書又山石と〜字の悍業

○政常ハ小刀派治の名人目利ハ生綱の

上ニ書と綱油山刀の〜

○寸尺の年古人流多

用尺一尺可高田玄柳曰今曲尺六寸四寸

有奇中根璋曰今曲尺六寸五方六厘

有奇朱舜水曰今曲尺六寸四分四厘

曰今曲尺六寸四分二釐有奇物茂曰

今曲尺七寸四分弱周ヨリ常漢モ同

唐ノ世今ノ曲尺也

○緒布ニ文字書ニ生々ノ計ニ加テ墨以

する〜

○本錦と書ハ四疊ヲ少入シ

○鄙野都遠キ野と云是ハ五百歩間里

ハ二十五家

○覇王 覇ハ把ニ權ヲ把シ

○便僻 上ノ新好オモルヲ便ニ上ノ新ニ慕

曲ヲ遊ト僻ト云

○不穀 諸侯ヒゲシク云僻穀ハ云

○吟田ノ間際ゾ云

○府 文音ノ鹿庫 兵車兵國此形苑

倉ノ自形苑

○朕 我ナリ

○謚 用云所定

○朱砂 懐中 ありせり

○帳 上ニ度々茶並ニ外書張

○板 上書〜墨〜の形と入

初書〜り 中平此書山ま〜の信山懐中
借用の〜

副官都尉 國亦ハ侍奉平花殿ニ

○軍陣ノ獨身ノカセキハ鎧を合ルルヲカサ
惣而働ノ強キヲ云テ鎧ト呼奉ル古ヨリ
鎧程強キカサハ無故ニ末代ノ鎧ニテ鎧ト
云ニ其名八条アリ所習

一番鎧 二番鎧 小返鎧 大返鎧 付入鎧
城攻ノ鎧 籠城ノ鎧 請トテ鎧

是ニ指續タル働四糸アリ
一番兼 兼込 鎧脇太刀 鎧脇弓

此外高名七条アリ
鎧下高名 鎧場高名 退口高名 提討

高名 崩瀝高名 場中高名 此条不見
凡鎧ニ似テ鎧ニテナキ品十五ヶ条アリ但いぬ
ヤリト云

○禪家僧司

修造司 作事奉行 堂司 持條奉行ニ之酒堂
淨頭 東取奉行ニ 頭能放 傳告ル人トアリ
首座 一番座ノ頭也 書記 物書人
藏主 藏奉行ニ 知客 客人ノ時長老ニ
奏者云僧人

浴主

且過僧 風呂奉行ニ 江ノ僧共一宿スル
所ニサレシテ過ト
書

行者 禪家ノ間者ニ只所
信ノ如寄者道ト
副參望參 張リ物洗濯
奉行ニ

庫主 庫裏坊主ニ

出納 弟茂ヲ納ル人ニ

木守

火鈴振 寮僧塔頭ハ打版
ヲ叩テ時ヲ遣ト

外僧堂 座禪ノ時ノ僧ニ

知事 一切寺ノ賄ヲスル
人ニ

副守 所領ノ賤ヲスル人ニ

直藏 采奉行ニ

典座 法僧塔頭酒撰
人ニ

都官都尉 僧ノ名字ヲ付時
悉ク皆斗フ人ニ

塔頭坊主 其時ノ住持
隠居ノ房人

山主 庵主ナリ

參頭 行者ノ頭ニ

供頭 禪菜頭ニ

炭頭 ヲコシ炭其行

山主 新奉行ニ

門守

階堂 飯肴ヲ副ル僧

從僧 板フク者ニ

都寺監寺 所領ヲ知テ
裁ク人ニ

維那 佛事ニ勤名
始ル役人ニ

寺仕兼仕 鐘突ト云
スル者ニ

駈使 定使ニ

同朋 力者ニ

○猿治馬病。裨海云晉趙固之病郭璞見之曰使獼猴相馴之病可愈云於是隨璞之言果馬病愈矣 或曰此說妄

○土蜘蛛ト云フハ土穴ニ住ム盗人ノ名也日本書紀ノ神武天皇ノ紀景行天皇ノ紀等ニ土蜘蛛ヲ征伐シタマヒシ 神功皇后紀ニ土蜘蛛 事見タリ 源賴光ノ土蜘蛛ヲ征伐セラレシト云モ蜘蛛ノ沃タニ三六非ズシテ盗賊ナルヘシ

○三代實錄貞觀十三年十月記曰本朝制度ハ擬唐礼

○クロモシノ木皮ヲサリ木ヲ刻ミ煎服スレハ積痞ヲ治ス又小兒ノ疳疾婦人ノ頭痛ヲ治スト云用テ驗ヲ試ムヘシ

○舟ニヨリヌサカスル

武鳥 ナカノコヤキ 木香 ナカノコヤキ

青皮 クシラノホ子 枳殼 ナカノコヤキ

丁子 クシラノホ子 美草 ナカノコヤキ

右細末メ蜜テ煉ル生姜ヲ密ニセシテ生姜ヲ去其汁ニテ煉ル

○金瘡藥方 金瘡名人近江国大膳亮家傳

人為子 ニムカシラヲ去 川骨 ナカノコヤキ

熟地黄 ニムカ 川芎 ニムカ

白芍薬 ニムカ酒ニツケ 牡丹皮 ニムカ酒ニツケ

肉桂 ニムカ酒ニツケ 甘草 ニムカ酒ニツケ

右刻ミ合香色ニ炒リ一包ニ七分宛如常煎炙シ手負ニ用メニヒヨ直シソリケ石来

○血トメサ方 室賀入道傳

麒麟湯 ニムカ其俣 紫柏 日断

熟地黄 ニムカ 川骨 ナカノコヤキ

楊梅皮 ニムカ其俣 紫河車 ナカノコヤキ

辰砂 ハムヨクスル水ニツケエテヲ去 象牙 ハム其俣ヤリ

當歸 ニムカ其俣

右十味刻合一包ニ十二分酒ニテ煎炙シ痲ノ口ヲ洗フイカ程深キ痲モ弁ルナシ痛ムナシ血止ル一妙也

○氣勢ヲツヨクスルサ方 蒲黃 ハムアゲル

キリン血 ハムアゲル

人參 一匁 桂枝 白朮 沉香 一匁 茯苓

辰砂 二匁 梅核 前二匁

右粉茶ニシ白湯又ハ水ニテ用多クハ人ノ
気色ニヨルベシ但無病ノ人余リ石可過此
茶手負ニ限ラズ常ノ人ニモ可用又伏兵ノ
片是ヲ用シハ気勢ツヨクナリテ退屈ナシ

○寒ク防ク茶 服部治部春門傳

鶏卵 十匁 是ヲ酒ニテ能 干姜 十匁 砂 十匁

肉桂 五匁 其俵 丁子 八匁 七俵

防風 三匁 三匁 羌活 五匁 梅ヤウ

独活 三匁 同前 桔梗 二匁 カシラノカ

桂心 五匁 其俵 多去炒

右丸味細末メ蜜ヲ煉リ多ク少寒クハ此ヨル
野伏ノ時用衣薄シトイハ氏石寒濕氣ヲ
消清又云玉子ト干姜粉等分酒ニテ煉リ
持モヨシ

○暑者丸ニ用茶 腹ノ痛片ハ何ニテモ草葉

七色ヲ丸メ可吞度ク試シニ妙ク

○疫病ヲ除ク茶 雄黃胡麻ノ油ニテトキ

梟ノ尻ニスル乳香ヲ燒キ鐘ニ蒸スルハ此病ヲ
ウケズ

○息命丹方 桑嶋雲存秘書 以下同

黒蛇 二匁 黒ヤキ カラスノ頭 黒ヤキ 但鹿角先

人參 三匁 梅核 飛燭 十匁 其俵

麝香 二匁 二匁 鹿角ノ片 十匁

梅干ノ肉 五匁 黒ヤキ

右細末メ蜜ニテ子リ馬ノイキアヒ又人ニ用テ

ヨシノドノカワキヲ止ル人ノイキアヒニモヨシ

○左馬の陣 建春門 春門の陣

眞枳門なり

○京都任五銀治 丹波守吉道 近江守久通

大和守吉道 和泉守来金道 伊賀守金道

右禁裏御用五銀治也古代ヨリ定メ置シケ

ル由昔ヨリ今ニ至テ毎年正月天盃頂戴

仕ル由此時小刀五本宛進献仕ル由

○點心 佛寺法會ノ拜終日ノ勤行ニ先ヲ屈

スル工ハ心ヲ慰メン為ニ種々ノ食物ヲ拵備

ルヲ點心ト云菓子類新類等也

○八丈嶋ノ事 北條五代記ニ伊豆下田ヨリ南ニ
八丈嶋アリ此嶋女甚美容アリ昔ハ女ヲミアリ
シニワノカミ下河辺方節行秀入道智定居
此嶋ニ渡リ余多ク子ヲ生ル男モ余多クニナリキ
カヤ延徳年中北条早雲ノ家入朝此余氏
初テ此嶋ニ行伊豆ノ内ヘキハ北条ハ毎年平
直リ出ス延徳三年閏四月廿日伊豆國下田
ヲ出船七日ニ八丈ニツク○貝原氏云八丈島ハ
世ニ云女護ノ嶋ナルベシト○奇部考ニ云八丈ハ
伊豆ヨリ百里程未申ノ方ニアシタハ草日
本ノ蕪大根ノ根ニツクリ常ニ食フ食フ者
疱瘡ヲノガル香ニヤリノ如ク

○ウブスナ 日本紀 推古紀 冬十月癸卯朔大臣
遣阿曇連 阿部臣摩手侶二臣令奏于
天皇曰葛城縣元臣之本居也故因其縣為
姓名是以蕪之常得其縣以欲希臣之封縣
云々○大臣ハ蕪我大臣ノ本居ノ訓ウブスナト
アリ本居生レ處ヲ云也今神ノ夏ヲウブスナ
ト云ハ本居ノ神ト云フ也神ノ字ヲ付テ云ヘシ
○強盜竊盜ノ字 日本紀推古紀三十四年ノ紀見

○天狗 日本紀 舒明紀九年ニ見タリ

○蚌殼 アカガヒ 蚌異名ヲ瓦屋子ト云其カラ瓦屋
ニ似タリ魁蛤云蚌壳ノ久シキヲ炭火ニ折ス
酸ニツケ三度ヤク酸ニテ丸シ吞ベシ此茶ハ血
塊疼積一切ノ氣血ノ冷氣 癥癖 婦人ノヲ治
ス積聚ノ茶ナリ

○野心 日本紀成務紀ニ見左傳鴉子野心

○篋輿 和名抄云漢書注云 上音鞭和名 編竹木
為輿也ト見タリ今世ノ輿物ニアシタト云ハ
アミイタノ畧語也

○銀始貢 天武三年三月同十二年四月詔用銅
錢莫用銀錢

持統五年倭豫國司田中朝臣法麻呂獻宇
和郡御馬山白浪之斤八兩 銚一籠
○精進 弘次天智曰無雜故ニ精無間故ニ進
其年ヲ知テ 他多クニシヨリ

○詩賦興自天津皇子始事見于日本紀持統記
懷風藻ニ天津皇子ノ侍

○七首 類書纂要ニ云 此首ハ短叙之其作類也

蘭室久而不聞其香即無之化矣与不善人
居如入鮑魚之肆久而不聞其臭亦無之
化矣

○虎子 糞ヲムカフ又 楊海一得云 鏡本嘉永
煥卿著
通鑑後周記曰 杼厠行乞之人 注取人家虎子
寫去穢惡洗之者也ト是杼厠ハあいつり敷之
杼ハ説文ニ梘也水ニテユリスコク也五雜俎ニ北人ハ不
設厠用虎子ト云西京雜記以玉為便器此ヨリ
虎子ヲ便器ノ名トス北地ハ水田ナキユハ厠ナシニ
虎子ニテ取りテ穴ニ畜積テ乾シ用ト云行乞人
トハ 糞子ノ類也

字彙ニ西東雜記ヲ引テ銅ヲ鑄テ作ルト
アリ以玉ノ一見ハス

○手摸印指ヲ印スル之今ノ瓜判ノ如シ手判也
○祝髮 同書ニ云今致仕シタル人 鬚髮ヲ剃祝髮
ト云テ賀ス祝ハイワヒト訓ユヘニ賀ハスルベシ列子
湯問篇ニ曰南國之人祝髮而禪張湛カ注曰孔
安國注尚書云祝者斷截其髮也トシカラス髮ヲ
截ルヲニテ髮ヲ鬚トニ非ズ吳越ノ風俗ニテ
裸デクラスコトナレバ祝フベキコトニモアラズ

○截鈎 同眉又截彊トモ云唐ニテ酒飲賭ニル
戲ナリ

○アリマサ 昆陽漫錄云曆林問答ノ字本ヲ藏
ムル人アレハ序ナシ近比板本ノ曆林問答ヲ
見レバ作者在 在 序アリテ意ハ永申午垂春
日正俊大夫司曆賀茂在方書ストアリ存方石
ノ名人ユヘ今モ古者ヲアリマサト云トカマ
○竹醉節 又竹迷節凡云五月十三日也此日升
ヲ裁レハ枯ルリナシト云但此日裁カヘルニモ鉢ヲ
ツケス根ノ土ヲフルヒテ裁レハ枯ル也

○浮沓川 渡ル時身ヲ浮ナル道具也色ハコシラ
ラヘヤウアレハムツカレ何ヨリコシラヘヤスタ利
方ナルハ麻糸ノ綱或布袋ノ中ヘフクヘヲ入テ
用ベシ小フクベハ數多メ入ベシ大フクベハハフク
一ツニテヨシ入ハ胸ノ通りニ結付ヘシ馬ハ鞍ノ
四折ノシホデニ結付ベシ緒ノトケサル様ニ結
ベシ

○講頌 中院通茂卿七十賀記ニ讀師登声
講頌トアリ講頌ト云ハ講師ノ後口ノ座ニ音曲
ノ人或ハ詠吟モシツケタル輩各キホヒカハ

○兮字 字彙ニ弦雞ノ切歌辭ト注セリ兮字ハ歌ノ助語也漢父辭ノ歌ニ滄浪之水清兮可以濯吾纓滄浪之水濁兮可濯吾足類也詩ニモ兮字ヲ用ル事アリ又賦ニモ辭ニモ兮字ヲ用タルアリ賦モ辭モウタフ物ニハ非レト歌ニ准シテタチベウシヨクス章ヲ作り讀誦オモシロク作りテ歌ニ類スル者也此方ノ記録ノ類東鑑其外ノ俗書歌ニモアラサルニ兮ノ字ヲ助語ニ用テ書タルアリ誤也

○天行天皇 春湊浪浩曰大行天皇方葉集ニ大行天皇トアルハ持統天皇ノ御事ヲ稱セシ也天子崩御ノ後謚号ヲ奉ラザルウケノ稱也天安二年八月甲子夜葬大行皇帝於田邑ノ山陵ト文德實錄ニ見タル則是也此大行ノ字ハ漢書ノ文字ニテ天子崩不有謚号故稱大行音義ニ見エタリ

○ワザト ワサト、云詞俗ニハ熊ノ字ヲ用ユ本ハ故ノ字也コトサラニトヨム説文ニ使為之也トアリ故ノ字ワザト、ヨムベシ俗用ニハ熊ニテヨシ

○ムツカシ ムツカシト云詞俗ニハ六テ敷ト書ク本ハ煩ノ字也ワヅラハシキ也俗ニ病ノ事ヲワヅラヒト云是モ病ニテ身躰ノムツカシキナリ

○講 或問曰講字玉篇ニ古項切習也論也字彙ニ謀也寃也告也説文ニ和解也ナド、アリ字ヲ講ズル講釋ナド、云フハ其義叶ヘリ今世俗ニ念佛講匙目講惠比須講奈礼講ナト、云事町字釈ニアリ此講ノ意如何答曰是ハ學ヲ講ズル講釈スルノ講ヨリ轉用シタル名也學文ニハ一人ノ師有テ弟子多ク集テ其教授ヲ受ル也彼念佛講以下ノ講モ一人ノ主領有テ同志ノ者多ク集リテ其事ヲ営ム事彼學文ノ講ニ似タレハ轉用傍通シタル也

○片假名平假名先後 アイウエオノ五ナ音ハ古備公ノ作ト云傳フ是眞字ノ偏傍冠履ヲ有畧シテ其片射リ取用シ故片假字ト云也いろはハ僧空海ノ作ト云傳ヘタリ是草書ヲ更ニ大畧シタル者也平假名ト俗ニ唱ルハ其運筆平易ナルガ故也時代ノ先後古備公ハ先ニテ空海ハ後也片假字ハ先ニテいろはハ後也其證ハいろはノ中ニヘリツノ三字ハ

ノリハ宣也祝詞ヲノツト云ハノリト也ノリハ
宣也トハタマフ也ノタマフト云事也タマフヲ
畧シテタバト云タベヲ紛ムレバテトナル音テ
テトト音相通スヘノリテヲ轉ジテノリト云
フノリトヲ言便ニテノツト云祝詞本語ハ
リトゴト也宣給言ト云事也フトノトコトハ
文字ニ寫シテ太祝詞事又ハ大諱辭共書ク
太ハ敬ニ崇ブ詞也ノトゴトハノリゴト也上ニ云
ニ同シ文字ニカハル事勿レ

○九字 抱朴子曰入山宜知六甲秘祝ヲレテ祝曰臨兵闘
者皆陳列前行凡常密祝之無所不避要道
不煩此之謂也ト見ヘタリ抱朴子ハ道家ノ書也
道家ハ仙術ノ方ヲ行フ者也抱朴子姓葛名洪字
稚川漢朝人師鄭玄以儒知名後得神仙道術著抱
朴子九字ハ道家ノ方術也然ルヲ佛家ニ盜ミ取
テ前行ノ二字ヲ改メ在前ト作シテ用之也宋朝
ノ施子美が軍林宝鑑第九軍務篇ニ九字ヲ載
テ大公望が周公且ニ授ケシ秘方也ト云其九字
モ前行ノ二字ヲ在前ト作シタリ大公望ノ時
佛法ハナシ然ルニ佛家ニテ改タレ九字ヲ以テ周
公且ニ授ルト云ハ偽リナル事ヲ知ルベシ用事

亦モリヲニツク兼テ云クノ字ハ將ノ意也今將同ジト云フ
ハ昔モ今モ亦同ジト両ヲ兼タル意也サレハ
將亦トツバケテモ云ナリ

○チギルト云詞 人ト約束スル事也契ノ字也
俗ニ男女會合ノフト思フハ非也古歌ニ男女
約束ノクワチギルトアルニ俗ニハ男女ノ事ニ
限ルヤウニ思フ也

○鳥目千匹万匹贈之 古小判小粒ノ金子
無之サレハ今ノ如ク折紙ニ金子ヲ糊ニテ付ル
ヲナシ折紙ニハ真中ニ千匹万匹ナド書ケル
ハカリ也鳥目トモ何トモ書ズ當日ハ此折紙ヲ
贈ルバカリ也サテ後日ニ右ノ負數ノ鳥目ヲ
運ビ送ル也京都將軍ノ時代公私共ニ皆如
此也猶其昔ヨリ如此ナルベシ遠國ノ大名ヨ
リ公方ヘ獻スルモ先使者或状ヲ以テ折紙ヲ
獻シテ後ニ鳥目ヲ運送ス數月ヲ歷テ京
著スル也勝川新右衛門尉親元日記ノ趣ニ
如此ニ見エタリ

○鳥目通用金子通用人情ノ金子大判小判
小粒ナドハ慶長ノ比始メシ物ニテ其昔ハ鳥目

○ムルト云助語 マニ共ヤルト云 才サムル治○キヨムル清
○ハムル食○ホムル贊○トムル止○カムル響○タムル集○アツムル集
○ウムル埋○コムル葦○サムル醒○レムル責○セムル責 如ルムルハ
皆助語也

○キルト云助語 キリトモヤレ共云 ○ニキル握○チキル契

○カキル限○タキル沸○マキル紛 如ルキルハ皆助語也

○ナフト云助語 ナヒ共ナハ共云 ○オコナフ行○トモナフ伴

○イザナフ誘○ツミナフ罰○アガナフ贖○マカナフ賄○マシ呪

ナフ如ルナフハ皆助語也

○巴ノ字訓 俗ニ巴ノ字ヲトモエト訓ヲ付テ
其故ヲ知りタル人ナレ玉篇巴字ノ注ニ布加
ノ如國名又巴蛇吞象二年而後吐骨腹之
無心腹之病トアリトモエト訓ヘキノ義ナレ
諸ノ字書皆同シ巴ハ大蛇ノ名也其蛇ノ形
ヲカタドリテ篆書ニ巴如此書クヲ楷書
ニハ巴如此書クナリ蜀國ニハ此巴蛇アル故
巴蜀ト号シテ巴ヲ國ノ名ニモ用ル也サレバ

サレバ巴字ヲトモエト訓ベキノ義ハ曾テナレ
○貞丈按スル 鞠繪ノ形 ○如此巴ノ字ノ形相
似タルガ故ニ其字形ニ據テトモエト訓ヲ付
タルナリ字ノ形ニ據テ訓ヲ付タルハ巴字ヨ
リ外ニハナレ正訓ニハ非ズ俗訓也又水◎
如此廻ル形ヲ巴字ト云ハ鞠繪ノ紋ニ似タル
ト云事ニハ非ズ巴ノ字ノ筆勢ニ似タルヲ云
也紛レテ思ヒ誤ルナカレ

○キミノ稱 文書ニテハ君ノ一字ナレ共吾國
上古ノ詞ニハ我カ仕ハ奉ル主ノ御夫婦ノ
ヲ云也伊邪那岐伊邪那美ノ岐ト美又神
漏岐神漏美ノ岐ト美是キミ也キハ男
主美ハ女王也カミロギカミロミ一神ノ名ニ
非ズ惣稱也

○懷風藻 一巻アリ此書ハ日本人ノ詩ヲ
集メタリ四十六代孝謙天皇ノ御宇天平
勝室三年ノ撰也撰者ハ詳カテラス此時
代ハ唐朝ニ交リ使人往來アリ唐ニ旅宿
シ彼土ニテ學ビ文スル者ヲウリシ故詩ニ唐
風也天平勝室三年ハ唐朝ノ玄宗皇

